

「ありがたい」

鳥取県 梅翁寺住職 倉瀧英信

ある和尚さまと、会話していた時のことです。その方と話していると「ありがたい」ということばが、頻繁に出てきました。私は和尚様に聞きました。「どうして、いつもありがたいとおっしゃるのですか?」と。和尚さまは「どんなものに対しても、ありがたいという気持ちを持っていれば、ありがたく感じるようになる。たとえば自分に対する批判でも、ありがたいという気持ちがあればありがたく聞くことができるよ」と答えてくださいました。

「ありがたい」という言葉は、あることが難しい、めったにないという意味で、そこから転じて今の感謝の意味となったようです。あるお檀家さんが「よろしければ、召し上がってください」と袋いっぱい芽キャベツを持ってこられました。私が「こんなにたくさん、よろしいのですか?」と言いますと、お檀家さんは「どうぞ、どうぞ。実は、息子が丹精込めて作った最後の芽キャベツです。」とおっしゃいました。私は、一瞬言葉を失いました。その方の息子さんは急な病で他界されたのです。貴重なものをいただいたことに、胸がいっぱいになりました。その日の夕食でいただいた芽キャベツは、ほのかに甘くやわらかく……。私は、息子さんの人柄や思いを想像しながら、味わいました。

現代はモノがあふれ、私たちは物質的に豊かな生活を送っています。それでいて、足りないものへの欲求は限りがありません。次々新たに購入し、欲求を満たしていきます。これでは、ありがたいという意識を持つことはできないでしょう。

仏教は、ご縁を大切にする宗教です。ありとあらゆるもの、一つひとつが存在するには、多くのご縁や環境、かわりがなければ成り立ちません。見た目は同じでも、それぞれが個性を持ち存在している、つまり、ひとつとして同じものはない、あること自体が尊いのです。まず身の回りにあるものに、意識を向けましょう。それらは、自分の生活を支えてくれるものです、それらのおかげで私自身がある、ひいては私自身も、有り難い存在だと実感することができるところからです。